全油販連会員の会社紹介

株式会社マルキチ

11 代目の書いた回顧録の中に「大福帳を調べたところ元禄 2 年（1689 年）のものが一番古いので創業を元禄 2 年とする」と記されているのを根拠として創業年としている。件の大福帳や商売に関わる歴史的な資料や財産の多くは 1945 年 3 月のアメリカ軍による大阪への爆撃により全て焼け落ちてしまっている。

明治 30 年

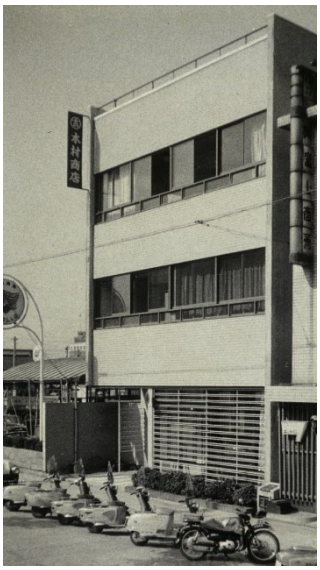
創業当時の元禄年間には燈明用の油類、頭髪用の鬢付油の原料油（梅花油）および晒木蝋等が主な取扱商品だったと推測される。

梅花油は主に菜種白絞油（精製菜種油）、胡麻太白油（精製胡麻油）に薬種類（草根木皮）の香を炊き込んだ香油のことで、鬢付け油、ぎんだし油の原料である。

明治 40 年

昭和 20 年(1945)3 月 13 日深夜より 14 日未明にかけて大阪市内南部は米軍 B２９の焼夷弾攻撃を受け、自宅、店舗、倉庫、貸家が一瞬にして灰燼に化した。さらに同年 5 月に築港周辺に米軍の爆弾、焼夷弾攻撃があり木村製油所が焼失した。

昭和 21 年(1946)10 月に丸吉商事株式会社（資本金１９万５千円）を設立し復興に立ち上がる。塩町３丁目４０番地で事務所兼倉庫兼社員宿舎を立て、電話１本から復興を始めた。



昭和 25 年ころより戦前の仕入先である味の素株式会社、花王石鹸株式会社の取引が復活し更に日清製油株式会社、丸本油脂株式会社、キユーピー株式会社、星産業株式会社等の取引を加えて順次復興発展することとなった。

昭和 36 年

昭和 31 年(1956)11 月、仕入先各社及び販売得意先の温かい支援のお陰で戦災 11 年目にしてコンクリート建の不燃の新社屋が落成した。

＜以上「油一生の回顧」昭和 53 年(1979)1 月　八十歳　木村治朗　より抜粋＞

1965 年頃以降は小売市場にスーパーマーケットが台頭し、家庭用油の販売形態が斗缶の量り売りから元詰めの一升瓶、さらに小缶、小瓶が発売されるようになった。家庭用小容量の発売は油を食品ルートへも流通させることになり食品問屋との競合が始まった。

昭和 50 年(1975)頃、マルキチは家庭用からほぼ完全撤退し業務用に特化し、業態変化に対応した物流機能を充実させるために昭和 56 年(1981)5 月 12 日、営業の本拠を現在の東大阪市本庄西 3 丁目へ移転した。同時に社名を株式会社マルキチに変更した。

油商としての商売は食品卸業と競合する時代となり、顧客の要求により油脂から加工食品、冷凍食品、洗剤へと取り扱い品目を増やしてきた。また、1995 年頃には得意先の廃業が相次ぎ、その商売を引き継ぐ機会も多く食品流通業としての仕事が増えていき東大阪の配送センターでは油のみならず食品・洗剤の在庫を持ち顧客に配送することが増えてきた。

2013 年に油屋としての商売の新しい展開としてオリーブオイルの輸入販売を始めた。イタリアでオリーブオイルを学び様々な研究をして輸入を開始した。イタリアから輸入する希少なオリーブオイルを新たな市場に新たな方法で販売することを始めた。

マルキチは事業の他に環境負荷低減の取り組み、地域への協力と地域づくりの取り組み、インターンシップ・職場体験の受けいれなどにも力を入れている。
2025 年の大阪・関西万博へは地域の経営者や大学とともに「誰もが安心して暮らせる社会」を実現するための取り組みを紹介する出展を行った。

2025 年 9 月 29 日大阪・関西万博